

2024年複合大災害 被災地からの報告 (民医連)



2024年11月10日 災害対策全国交流集会2024

石川民医連事務局長
石川民医連能登半島地震対策本部長代行 寺山公平

1. 震災への対応と取り組み

石川民医連の取り組み

- 1/1 16:10頃 最大震度7 (M7.6)
16:12 「状況確認・安否確認要請」第一報発信
18:06頃 城北病院に地震対策本部設置
19:30 第1回対策本部会議



1/3 輪島へ視察第1陣派遣（対策本部の金沢市から輪島110km／当初は片道6時間以上）

1/12より 輪島へ支援者・物資の搬送のために往復支援便運航開始

2月末より友の会会員の訪問行動開始

5月頃より仮設住宅の訪問、奥能登孤立集落の訪問など開始、金沢以南での避難者集い開始

6月末より運動課題へのシフト（主に医療や介護にかかわって）

7月 石川県と懇談（要請含む）

- ・輪島診療所 ー 建物被害なし、3日目に通電、処方箋外来開始
3/27まで断水、2/7～通所介護開始 職員8割が避難所等から出勤
- ・輪島菜の花薬局 ー 1/4から営業開始、3月初旬まで断水
- ・羽咋診療所 ー 建物被害なし、4日目当番医で診療開始 1週間断水
- ・職員の安否：石川民医連1,500人の職員全員無事確認（ただし1週間かかった）
- ・職員自宅の被害：全壊・全焼11人、職員計1,500人の1割以上が自宅一部損壊以上の被害

1. 震災への対応と取り組み

石川民医連は、事業活動の継続、職員のメンタルケア、対策本部の維持のために全日本民医連に支援を要請

- ・医師 34人（輪島診療所、城北病院、小松みなみ診療所）
- ・看護師 92人（輪島診療所、城北病院）
- ・薬剤師 4人（輪島薬の花薬局、菜の花薬局）
- ・介護職 2人（輪島診療所）※石川民医連内から
- ・心理職 12人（職員のメンタルケア・面接132名）
- ・事務幹部 44人（対策本部および輪島訪問行動拠点）



患者さん・友の会会員さん・地域の状況把握や生活支援の訪問にも全国から100人（輪島にコーディネーター常駐）

- ・訪能登各エリア累計3,153件訪問967件対話（内67件生活支援・片付け）
- ・ターミナルの方をご自宅に（余命3週間→2か月後ご自宅で永眠）
- ・金沢市以南でも2次避難所訪問や健康チェック、物資配布、生活相談実施



1. 震災への対応と取り組み

被災者の医療費・介護利用料免除

「9月末まで」

- ・7月県懇談・要請「多分延長でしょう」
- ・8月初～アンケート 623件
- ・9月県議会へ請願
- ・9月国会議員へ要請
- ・9/17厚労省免除継続方針表明
- ・9/20県議会中質疑

：県の答弁「協議中と聴いている」

「通知を待っている」

：延長を求める請願賛成は共産党のみ

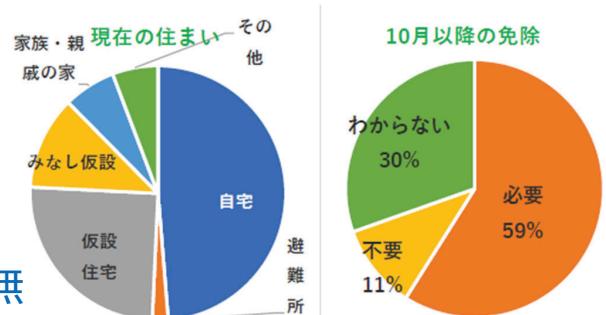
「12月末まで継続」9/27事業所へ通知（遅い!!）

県民のいのちと健康をまもる行政として率先して国に意見をあげるような姿勢は皆無

石川県立
被災者医療費
被災者介護利用料
免除申請
申請書
令和6年9月 日
申請者 沢田 信一
性別 男
年齢 64歳
会員登録番号 24-14
(039900)
認定済

石川県立
被災者医療費
被災者介護利用料
免除申請
申請書
令和6年9月 日
申請者 沢田 信一
性別 男
年齢 64歳
会員登録番号 24-14
(039900)
認定済

石川県立
被災者医療費
被災者介護利用料
免除申請
申請書
令和6年9月 日
申請者 沢田 信一
性別 男
年齢 64歳
会員登録番号 24-14
(039900)
認定済



2. 9/21豪雨災害への対応と取り組み

豪雨災害後の石川民医連の初動

- 9/21 9:00頃 線状降水帯発生（ここまですでに1時間121mmの豪雨）
9:20 現地から県連役員へ「市内の河川等増水・道路冠水」第一報
事務長に職員の安否確認を依頼
9:30頃～13時頃にかけて奥能登の河川が順次氾濫
11:52 石川民医連内管理者に輪島の状況を共有
輪島診療所職員の無事を確認（ただし本人と直接連絡ついていない一人含む）
輪島診療所裏側（駐車場）で浸水の危険有り対応
12:34 輪島菜の花薬局職員と建物無事を確認
13:30頃輪島診療所裏側で水が引きはじめる
17:14 輪島診療所で3人避難宿泊の連絡
17:57 輪島菜の花薬局で1人避難宿泊
- 9/22 9:00 **河川氾濫・豪雨災害緊急合同対策会議**
20:00 無事だが直接連絡がとれていなかつた職員無事確認
- 9/23 観察・緊急泥出し作業支援：民医連役員6人、友の会役員3人
- 9/24～ 緊急水害作業支援を呼びかけ
全日本民医連にも要請し10/11まで**合計のべ延べ約330人作業**



3. 課題（私見）

- ・医療費・介護利用料自己負担免除期限12月末：能登被災者はもとより金沢にいる被災者の負担感→10/28～訪問行動開始、健康状態や負担感について聴き取り
- ・広域避難者を「能登へ“戻す”」県の姿勢：被災当事者の想いは尊重されているか
→県の姿勢を問う懇談を予定
- ・「世帯単位支援」主義、申請主義
- ・「有事だから我慢は当たり前」という風潮
- ・たびたび大規模災害が起きる日本、そのたびに繰り返される
「劣悪な避難所環境（食事、衛生、プライバシー）」「被災者の住む権利」「生活再建の補償」
- ・被災者の実態を省みず「平時」に戻そうとする各種施策
- ・情報整理、窓口整理、行動整理、備品整理
- ・能登の人口動態、医療介護のありよう、生活や生業などの未来
- ・一人ひとりの「権利」が守られているか　被災者・避難者・家族、支援者・受援者…
- ・復旧・復興の遅れ／過去の大災害の教訓が生かされない最大の理由は何か
→行政は総選挙で奥能登の投票率前回比10ポイント低下をどう考えているのか

4. まとめ

(石川)民医連は被災当事者でもありながら
どうして「被災者支援」に取り組むことができるのだろうか

- ・民医連は運動団体であると同時に事業を行う経営体。被災地に事業所があって、職員・患者・利用者がいたこと
- ・開設時（または以前）より、民医連の事業所を支える地域住民組織（＝友の会）が健康づくり・まちづくりの活動をひろげ、地域に浸透していたこと（輪島市の友の会会員比率は人口比24%）
- ・事業所の医療・介護活動および友の会活動が「日常から」地域に根付き、結びついて、信頼を得ていること
- ・被災者「支援」ではあるが、そもそも「いのちと健康」「人権」を何より大切にする組織として「困難あるところに民医連あり」を共通認識に「自らの課題」として捉えていること

以下) 地震および豪雨災害の特徴 参考資料

1. 能登半島地震の特徴

◆前例のないあらゆる破壊現象・被害

- ・最大震度7(M7.6)／15秒間に3回の地震が連續して発生し、巨大化、周期1～2秒の振動が1分も続き、共振により建物が倒壊／3日間で震度5強以上の地震が7回かつM3.5以上の余震が過去数十年でも突出して400回超
- ・地盤隆起、土砂崩れ、道路崩壊や陥没、断水も影響した火災の延焼、津波、海底隆起、側方流動、液状化などあらゆる破壊現象
- ・道路はもとより水道管等がことごとく損壊
- ・半島という地理的特殊性によって、道路寸断・インフラ(水・電気)寸断。救出・救護・救援・復旧などのための移動・作業が著しく困難になった。

地理的孤立だけでなく社会的孤立も発生

◆犠牲者445人（報道）

- ・うち災害関連死218人
- ・行方不明3人

◆避難所

- ・最大404ヶ所・34,000人超、
1.5次避難所3ヶ所に最大
367人、2次避難所に最大
5,200人
- ・10/1時点
1次避難所 21ヶ所・182人
1.5次避難所 9/30に閉鎖
2次避難所 31ヶ所・145人

1. 能登半島地震の特徴

◆直接被害

建物被害は県全体で約7万棟、輪島・珠洲は被災家屋の半数以上が全壊あるいは半壊、人口当たりの全半壊率は珠洲が27%、輪島が15%。

◆間接被害

災害後の対応の遅れや漏れにより広範囲に発生。災害関連死、広域避難、心身の疲労と破壊、成長と発達の阻害、家族やコミュニティの崩壊、地域産業や地域文化の崩壊など、被災者が見えなくなつておらず、間接被害の実態が見えない。

◆高齢化が著しい能登半島

過疎化・人口減・高齢化が著しく、この10年間で人口2割減、65歳以上5割、高齢者のみ世帯4割
奥能登2市2町で高齢化率50.5%

◆原子力発電所

志賀(しか)原発は東日本大震災以降稼働しておらず過酷事故は免れた。ただし変圧器油漏れや燃料プール水漏れなど深刻なトラブル発生、道路寸断による避難計画の破綻(非現実的)露呈。

かつ、次々に被害や故障程度を「修正」で信用ゼロ。

1. 能登半島地震の特徴

所得300万円以下世帯3割、戸建て・大規模・老朽の木造住宅が圧倒的に多い、木造8割、1980年以前に建築された家屋は5～6割（新耐震基準1981年6月以降）

輪島市内



10/1で発災から9ヶ月経過。
いまだ復旧の途上にある能登各地



2. 9/21豪雨災害の特徴

◆観測史上最大の豪雨

- ・24時間で平年9月1カ月分の2倍の降雨（3時間で1ヶ月分）
- ・27河川氾濫、土砂災害42件、土砂崩落・倒木・冠水で最大48ヶ所通行止め
- ・もともと1/1大地震で、①地盤の変化、②山肌、地盤のゆるみ、③川底に土砂が堆積/堤防崩れで流量上限が低下・護岸機能低下、④河口近くの海底隆起も影響？（もともと河川が短く一気に流れ込む能登の地形）
- ・増水、氾濫、土砂崩れ、地滑り、山津波(激しい土石流)
- ・地震被害を何とか免れた、小規模損壊で済んだ建物も崩壊、丸ごと流失、山肌・橋も決壊
- ・停電、断水（珠洲市や山間部は目途なし）
- ・県「低気圧と前線による大雨に伴う災害」
→10/1に「奥能登豪雨による被害」へ表記変更

「地震より酷い」「津波より多い」「心が折れる」

◆犠牲者14人

- ・安否不明者1人

◆避難所

- ・10/1時点
避難所 30ヶ所・454人
(10/4) 32カ所・492人
仮設が浸水し再び避難所へ戻らざるを得ない。10月中旬から「2次避難」開始。36施設900人。

◆浸水仮設住宅

- ・6カ所 また退去へ

◆医療・介護被害

- ・診3、薬3、施設3 床上浸水

◆9/21災害救助法適用

◆10/9被災者生活再建支援法適用

◆10/25激甚災害指定

